

## 神戸市東部におけるゴキブリ調査とクロゴキブリの食の嗜好性調査

川野雅孝 (兵庫県立御影高等学校)

### はじめに

私は昔、神戸市北区に住んでおり、クロゴキブリをよく見かけていた。2024年に神戸市灘区に引っ越した後、そこではクロゴキブリを見なくなりその代わりにワモンゴキブリを見かけるようになった。また、人と自然の博物館の学芸員の方のお話でワモンゴキブリは10年ほど前に東灘区に分布していたことを聞いた。そこでゴキブリの分布に興味を持ち調査をすることにした。また、なぜワモンゴキブリがクロゴキブリより生息域を広げることができたのか調査しようと考えた。



図1 ワモンゴキブリ



図2 クロゴキブリ

### 調査方法

- ① 2025年7月～2026年1月の期間、神戸市北区の一部と中央区～東灘区で目視による死骸搜索、生体捕獲、罠設置などでゴキブリ調査を行った。
- ② クロゴキブリの食性を調べるために幼虫に植物性エサとしてレタス、動物性エサとしてドッグフードを与える。7日間置きどちらがより減っているかで嗜好性を判断する。ゴキブリは30℃のインキュベーター内で飼育した。なお実験に使用した幼虫は幼齢幼虫合計20匹である。実験前にはレタスを与えていた。

### 結果と考察

- ① ゴキブリの分布について神戸市北区（星和台～鈴蘭台）でワモンゴキブリは発見されなかった。また、クロゴキブリを王子公園北部で、ワモンゴキブリを元町駅南で発見した。右図は今回の調査で発見したゴキブリの大まかな位置、下表は具体的な数である。

場所	北区	兵庫区	中央区	灘区	東灘区
クロゴキブリ	42匹	5匹	23匹	1匹	0匹
ワモンゴキブリ	0匹	0匹	11匹	33匹	13匹



- ② 食の嗜好性に関する実験では、ドッグフード1個が食べつくされ、残り2個も大半が食べられていた。一方レタスはところどころ穴が開くも全体的にはあまり食べられなかった。

以上より灘区～中央区においてクロゴキブリとワモンゴキブリは互いに生き残っていることが判明した。しかし、ワモンゴキブリの多い地域ではクロゴキブリの目撃が少ないことからワモンゴキブリの食の嗜好性においては肉食性が強い可能性があるのではないかと考えられる。